

2022年9月13日

未承認新規医薬品・医療機器評価委員会で承認された治療法

当院の未承認新規医薬品・医療機器評価委員会にて、下記の治療法が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページにて情報を公開することにより投薬を実施しております。なお、本件について同意できない場合、診療において不利益を被ることはありません。この内容に関して拒否される場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

記

|         |   |
|---------|---|
| 実施内容    | もやもや病血行再建術後の過灌流予防におけるミノサイクリンの使用   |
| 実施責任者   | 三重大学医学部附属病院<br>病院長 池田 智明  |
| 対象者     | もやもや病に対して血行再建術を受ける者   |
| 承認日     | 2022年9月13日  |
| 対象期間    | 承認後から永続的に使用   |
| 概要      | <p>【目的・意義】もやもや病に対する血行再建術では、動脈硬化性脳主幹動脈狭窄に対する血行再建術に比べ、バイパス設置部位の局所血流が過剰に増加してけいれんや片麻痺などを呈する過灌流症候群がより問題となり、時には脳出血に至って重大な後遺症を残す場合がある。血圧管理や鎮静など、これを予防する手段は種々報告されているが、抗生物質であるミノサイクリンも、細胞外マトリックス蛋白であるMMP-9を阻害することで脳血液関門の重要な構造物である血管内皮基底膜の変性を妨げ、脳血流増加時の脳浮腫や出血性転化を予防すると推察されている。このMMP-9はもやもや病症例に多く発現していることが知られているため、もやもや病に対する血行再建術後の者にミノサイクリンを投与すると、効率的に過灌流の予防ができると考えられる。</p> <p>【想定される不利益と対策】ミノサイクリン内服者に一般的にみられる副作用（ショック、アナフィラキシー、不快感、口内異常感、喘鳴、眩暈、便秘、耳鳴、発汗、全身潮紅など）が考えられ、重度に認められた場合は直ちに投薬を中止し、適正な対処を行う。</p> |
| お問い合わせ先 | 三重大学医学部附属病院 総務課 総務係<br>代表 059-232-1111（内線 6293）   |

以上